

■ 高齢者訪問まとめ

守谷市南部地域包括支援センター

訪問期間:令和7年6月12日(木) ~ 令和8年1月7日(水)

(1) 高齢者訪問について

- ・昨年度から継続して訪問を行っていた高齢者に対しては顔が見える関係が構築され、生活状況の把握や課題の聞き取りがしやすくなった。【継続訪問の効果】
- ・家族との関係性が希薄なケースがあり、支援が必要な際に第三者(民生委員、公的機関)に頼る傾向が強かった。

(2) 訪問内容について

- ・訪問時期に合わせて熱中症予防やフレイル予防など啓発内容を変えた。詐欺に対する注意喚起は全期間通して行い、リスク回避に努めた。
- ・支援アプローチ:訪問前に昨年度の生活状況や支援経過を確認し、状況に応じた対応を心掛けた。生活環境等に変化があった場合は、本質的な不安や困りごとに対応をした。必要に応じて介護保険、高齢者サービスやインフォーマルサービス(配食サービスや有料のヘルパー等)の情報提供を行った。

(3) 民生委員との連携について

- ・民生委員と同行訪問する件数が年々増加している。同行訪問をすることにより高齢者の警戒心を和らげられ、受け入れていただくことができている。
- ・民生委員の同行訪問が、高齢者をつながりを持つきっかけになったという意見が聞かれた。
- ・民生委員との日程調整に時間を要したが、地域住民にとって民生委員は身近な相談相手として認識されているため、見守り活動にも寄与することができた。また、地域の見守り活動を通して得た情報を民生委員より提供されたことで、今後の支援や再訪問の参考となった。

(4) 再訪問について

- ・フォローA(至急対応):1件
独居で認知面とADLの低下が急激に進行している状況であったため、早期に訪問し必要な支援や定期訪問につなげることができた。
- ・フォローB(再訪問1か月以内):7件
認知機能低下やADLの低下がみられたため。

・フォローC(再訪問3か月後):12件

認知機能低下やADLの低下がみられたが、周囲のサポートがあるため、早急な介入は必要がないが、状況確認が必要なため。

・フォローD(再訪問6か月程度):8件

認知機能低下疑いと、身体的な病気で進行すれば日常生活に支障を来すことが懸念されたため。

(5) 次年度に向けて

① 高齢者訪問の内容について

高齢者訪問をきっかけに、定期訪問の対象として支援を継続することに繋がっている。前年度からの状況変化や高齢者との関係性を築き、タイミングを計りながら支援につなげていきたい。

また、地区により多少の偏りはあるが地域全体に共通する課題として交通手段等の不満についての訴えが多かった。免許を返納したくてもやむを得ず運転を続けているという声が多く聞かれた。通院や買い物、地域活動への参加など、車の運転は移動手段として生活の中で重要な役割を担っていることがうかがわれた。高齢者が安全に自立した生活を継続できるような施策が望まれる。

② 訪問体制について

専門職による訪問体制の強化を図るために、他職種と組み合わせた訪問を推進し、それぞれの専門性を活かしたアセスメントを行う。あわせて、訪問後にカンファレンスを実施することで必要に応じた支援や再訪問を継続して行っており一定の成果を上げていると判断するため、今後も継続していく。

③ その他の課題と対応

初めての訪問で連絡先まで確認することは非常に難しい。仮に連絡先を教えてくれたとしても、その後のフォローのために電話に何度連絡しても出してもらえないことがあった。また、新規で訪問した中には、警戒心のためにインターフォン越しでの対応や居留守を装った状況がみられた。高齢者の安全を確認しつつも、信頼関係の構築していくことを目指したい。

高齢者の生活状況や不安の把握や支援に、アウトリーチ型の訪問は一定の意義が認められているが、アポイントメントのない訪問によって余計な心配や不安を与えているのではないかと感じた。高齢者の生活状況を把握し、必要な支援につなげるためにも訪問方法、支援方法について改善策を検討していきたい。